

### 西6階HCU病棟 看護師 大井克也 「ハイケアユニットでの看護」



西6階HCU(High Care Unit)では高度治療適応患者さんに対して看護実践しています。患者さんに対してより密接に重症管理に関わっており、主に循環器では大動脈解離、急性心筋梗塞によるカテーテル手術後の循環動態が不安定な患者さんに対し、観血的動脈圧測定、肺動脈カテーテル管理、重症不整脈患者さんのペースメーカー挿入前後の看護、NPPV(非侵襲的陽圧喚起療法)、Nasal High Flow(高濃度高流量酸素療法)、挿管下によるレスピレータ(非侵襲陽圧喚起療法)管理などを重点的に行っています。

西6階HCUでは一般病棟と異なり循環動態が不安定な重症患者さんが多いため、急に調子が悪くなってしまい、生命の危機に直結するような状態の変化が起こりやすいことが現実です。そのため、急変対応のスキルも問われ、日々の業務実践と同時に緊急時対応の知識習得も並行して進めています。以前、急変時の対応に関わった際に素早く、正確な対応ができず、患者さんや家族の申し訳なさに悔やんだことがありました。後悔することも度々ありますが着実にスキルアップの手ごたえは感じることができています。

60歳代女性のAさんは、呼吸状態が悪く、気管内にチューブが挿入されており会話ができない状態でしたが、意識はしっかりされた状態でした。私が担当した際、Aさんはとても辛そうな表情をされており、何か伝えたい様子でした。私は、表情をよく観察し、文字盤を使用しながら、Aさんの訴えがどんなことなのか一つひとつ引き出していけるよう関わりました。Aさんは、思うように体を動かせないことによる腰痛が辛いこと、痰がどんどん出てくることで息苦しい感じがすること、とても不安な気持ちであることを伝えてくれました。私は、自分ができる限りそばにいてことを伝え、まずは安心して過ごしてもらうことが治療には大切であることを説明しました。また、苦痛が軽減できるよう、Aさんの体位をこまめに変え、腰部のマッサージ等を行いました。痰の吸引はつらさを伴うので、Aさんの表情を見ながら、排痰を促せるように声を掛けながら最小限の時間で実施するよう努めました。また、退室時には、ナースコールと一緒に確認し、何かあればいつでも押すように伝えました。その後、Aさんは順調に回復され、一般病棟へ転出されました。リハビリテーションにて歩行訓練を行っている際、私に気づいてくれました。Aさんからは、「もうすぐ退院できそうです。私が一番辛い時に、とても丁寧に対応して頂き、安心してお任せすることができました。あの時は本当にありがとうございます。」と声を掛けて下さいました。回復されたAさんとお会いし、感謝のお言葉を頂き、とても嬉しくやりがいを感じた瞬間でもあります。

西6階HCUの患者さんは、生命の危機感、精神的不安を強く感じているばかりではなく、様々な医療機器やチューブ類に囲まれ、侵襲の高い処置やケアにより身体的苦痛も強く感じています。患者さんの異常を早期発見するために、密な観察や医療機器の正確な管理もとても重要ですが、患者さんやご家族の苦痛や不安に対して、気持ちに寄り添い、小さなつらさも見逃さず、きめ細かな対応、丁寧なケアが提供できるよう、多職種と協働し、これからも努力していきたいと考えております。